

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

アルコール依存症の早期介入から回復支援に至る
切れ目のない支援体制整備のための研究（20GC1015）
アルコール問題を有する地域高齢者への効果的な介入と支援に関する研究

研究分担者 杠 岳文 肥前精神医療センター 院長

研究要旨：アルコール問題を有する地域高齢者への効果的な介入と支援に向け、在宅介護現場におけるアルコール問題の実態を把握すべく、日本介護支援専門員協会の協力を得て、介護支援専門員 1,000 名を対象とするアンケート調査を開始した。アンケートでは、担当しているケースの中で、①アルコール問題を有するケースがどのくらいあるか、②飲酒関連問題の具体的内容、③介護する家族のアルコール問題、④有効な支援に必要な事柄、⑤身近な相談機関、⑥飲酒問題で対応に苦労したケース、⑦効果的な対応で、飲酒問題が改善したケースなどについて、自由記載を含めて調査する。最終年度までに、本アンケート調査結果を基に、困難事例や効果的な介入成功事例などを含めた介護支援専門員向けのアルコール問題対応マニュアルの作成や研修会の開催を行い、支援者の人材育成にも繋げたい。

研究分担者氏名：杠岳文・肥前精神医療センター 院長

研究協力者：

武藤岳夫・肥前精神医療センター 医長

福田貴博・肥前精神医療センター 医師

角南隆史・佐賀県医療センター好生館 医長

手塚幸雄・琉球病院 医師

石井博修・佐賀県医療センター好生館 部長

松口和憲・福岡市精神保健福祉センター 医師

柴口里則・日本介護支援専門員協会 会長

坪根雅子・日本介護支援専門員協会 理事

榊寿恵・長崎市江平・山里地域包括支援センター 介護支援専門員

酒問題が顕在化する者の増加が指摘されている。在宅で介護保険サービスを受けている高齢者の中にも、飲酒の問題を抱えている者が数多くいることが、申請者らが2002年に行った26名の介護支援専門員を対象にした先行研究でも明らかになっている。当時の調査では、対象となる高齢者133名のうち8名（6.0%）に明確なアルコール問題があり、アルコール問題の存在が疑われる者も4例（3.0%）に及んでいる。在宅高齢者のアルコール問題は、問題が深刻化するまで事例化し難く、関わっている介護支援専門員もその対応に苦労し、こうした問題への相談窓口機関の拡充、様々な援助機関との連携、研修の必要性などが求められていたが、その後も具体的な対策に進展のないまま経過している。今回、約20年ぶりに日本介護支援専門員協会の協力を得て、全国の会員から無作為

A. 研究目的

人口の高齢化とともに、定年退職後に飲

抽出された介護支援専門員 1,000 名を対象にアンケート調査を行い、在宅高齢者のアルコール問題の実態を把握するとともに、介入の困難事例や好事例も集め、アルコール問題への早期介入と支援に必要なマニュアルや介護支援専門員向け研修会の開催に繋げることを計画している。

B. 研究方法

介護支援専門員に対するアンケート調査を、日本介護支援専門員協会の協力を得て行う。日本介護支援専門員協会会員の中から無作為に抽出した 1,000 名に対し、アンケート調査を郵送する。無記名でのアンケート調査であるが、1,000 円の QUO カードの謝礼を希望する者に対しては、謝礼の送付先と氏名を記載してもらい、謝礼は希望する者の中から、先着 600 名に対し送ることとする。アンケートには担当しているケースの中で、①アルコール問題を有するケースがどのくらいあるか、②飲酒関連問題の具体的内容、③介護する家族のアルコール問題、④有効な支援に必要な事柄、⑤身近な相談機関、⑥飲酒問題で対応に苦労したケース、⑦効果的な対応で、飲酒問題が改善したケースなどについて、回答肢から選択、あるいは自由記載で調査する。事例について自由記載の際には個人情報保護の点から、固有名詞を用いないようにと指示している。

(倫理面への配慮)

「介護支援専門員が地域で抱える高齢者アルコール問題実態把握と効果的な支援のためのアンケート調査」として、調査内容、研究方法について肥前精神医療センターの倫理委員会で審査を受け、承認を受け

ている。

C. 研究結果

4 月末日までの回収期限であるが、3 月 26 日までに約 300 人程度の会員からアンケートの回収を得ている。今後困難事例、好事例を含め、次年度に調査結果をまとめる予定である。

D. 考察

わが国の高齢者、特にその在宅介護現場におけるアルコール問題の実態を明らかにする全国規模の調査研究であり、今後の高齢者アルコール問題の施策を決める上で貴重な資料になると思われる。また、研究最終年度には困難事例や効果的な介入成功事例などを含めた介護支援専門員向けのアルコール問題対応マニュアルの作成や、それに基づく研修会の開催を行い、支援者の人材育成に繋げたい。

E. 結論

アルコール問題を有する地域高齢者への効果的な介入を行うため、在宅介護現場におけるアルコール問題の実態を把握すべく、日本介護支援専門員協会の協力を得てアンケート調査を開始した。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

杠岳文：アルコール依存症の早期介入. 第 40 回日本社会精神医学会シンポジウム「地域の依存の取り組み」、オンライン開催、3.5、2021

G. 知的財産権の出願・登録状況
特になし